平成29年1月13日／第４回説明会

**新技術実装の課題と対策に関する紙上ヒアリング**

岐阜大学 SIP実装プロジェクト

六郷　恵哲

このプロジェクトでは，SIP維持管理技術を始めとした各種の土木分野新技術について，岐阜県や県内市町村の公共事業に活用していただくためには，何が障害となっているのか，どのような対策が必要であるのかを明らかにすることを目的として，ヒアリング調査を行っています。第４回説明会にご参加いただいている皆様にも，この「紙上ヒアリング」にご参加いただきたく，お願い申し上げます。提出は，下記のいずれの方法でも結構です。

・会場でこの紙に記入していただき，SIP事務局へ提出

・後でこの紙に記入していただいたものか，そのPDFファイルをSIP事務局へ送付

・ワードのファイルをHPからダウンロードして記入していただき，SIP事務局へ送付

|  |
| --- |
| ◆ヒアリング調査の目的 |

SIP維持管理技術を始めとした各種の土木分野新技術について，岐阜県や県内市町村の公共事業に活用していただくためには，何が障害となっているのか，どのような対策が必要であるのかを明らかにすることを目的としています。

|  |
| --- |
| ◆ヒアリング調査の範囲 |

維持管理に留まらず，公共事業の全フェーズ（計測，調査，設計，施工，維持管理）における「新技術」の活用を対象としています。

本調査では，現行の技術基準や要領等に規定され，発注機関において標準的な積算基準が公表されている技術を「従来技術」と呼んでいます。「新技術」はこれ以外の技術をいい，SIP等で開発中の最先端技術のみならず，NETIS等に登録されている技術や，各種協会等が提案している技術，情報システム導入なども対象とします。

|  |
| --- |
| ◆回答していただく立場 |

本調査は，公共事業の最前線に携わっておられる皆様の，生の意見を伺うことを主眼としています。このため，所属される機関としての意見ではなく，業務や工事の責任者あるいは担当者としての意見をお聞かせいただけるようお願いします。

|  |
| --- |
| ◆設問１：新技術に関するイメージについて   1. 担当する事業に新技術を活用することについてどのように感じていますか？  * できるだけ多くの場面で新技術を活用したいと思う * 場面に応じて新技術の活用を検討する（従来技術で対応困難な場合など） * 現行の事業内容や体制・制度では新技術を活用できる場面は少ない  1. 「新技術」と聞いて思い浮かべる技術にはどんなものがありますか？ |

|  |
| --- |
| ◆設問２：新技術活用の経験について   1. 担当する事業で新技術を活用しようとしたことがありますか？   ・　有る ・　無い   1. どのような新技術を活用しようとしましたか？（活用したことがある場合） 2. 新技術の活用は結果的にうまくいきましたか？（活用したことがある場合）   ・　うまくいった ・　うまくいかなかった   1. うまくいった，いかなかった原因は？（活用したことがある場合） |

|  |
| --- |
| ◆設問３：新技術活用にとっての障害   1. 事業に新技術を活用できない，あるいは活用しづらい原因は何だと思いますか？ （該当するとおもわれる原因に○，そのうち最大の原因には◎）  * 特定企業を前提とした発注になってしまう（公平性が担保できない） * 会計検査への対応が不安である * 結果的に特定の企業や技術にお墨付きを与えることになる * 現行の基準や要領の要求事項を完全には満たしていない * 費用が高いためコストメリットが得られない * トラブル発生時のリスクが不安である（責任の所在，対応費用） * 現場で使えない（現場ニーズの把握が不十分） * 性能や精度に不安がある（根拠や保証が不明確） * 長期的な技術サポートに不安がある * あらたに技術習得や体制変更が必要となり負担増となる * 新技術を活用した場合の利点や欠点が不明確である * 新技術を活用した効果が明確に確認できない  1. 上記以外に想定される原因は？ |

|  |
| --- |
| ◆設問４：新技術活用を促進するための対策   1. 新技術を活用しやすくするためには，どんな対策が有効だと思いますか？ （有効とおもわれる対策に○，そのうち最も効果的な対策に◎）  * 新技術情報提供システム（NETIS）と同様の仕組み * 要領や仕様書における新技術の導入を促す記載 * 学会や業界団体による技術評価制度 * 学会や業界団体による基準や指針，マニュアル等の整備 * 各新技術の関係者が組織した技術協会 * 新技術の適用例や仕様記載例の提供 * 中立的な機関による新技術の評価制度 * 民間や準民間における新技術活用の実績づくり  1. 上記以外に有効と思われる対策は？ |

|  |
| --- |
| ◆設問５：新技術活用のための留意点   1. 留意点として下記の意見に共感できますか？ （共感できる意見に○，そのうち最も共感する意見に◎）   ◇既存業界との利害   * 従来技術で対応困難な場合の新技術活用は歓迎されるが，新技術の活用により従来技術が置換えられるような場合は，既存の企業や業界が対応可能な技術でないと反発が大きい。   ◇地元企業への配慮   * 地元の企業が参画可能な活用形態が必要であり，新技術の活用により地元企業が排除されないようにすべきである。災害対応や税収確保のため，地元関連企業の育成と存続は重要である。   ◇その他活用促進のための留意点   * 新技術活用の目的として，従来技術の改善（効率化，コスト低減）と，従来にない技術（高度化）の2つがあり，これの使い分けが必要である。 * 従来にない技術は，その活用の方法と効果が明確でないと使われにくい。 * 従来にない技術は，性能や精度が確実に保証されていないとトラブルのもととなるため，簡便で確実な検査・確認方法が必要である * 活用が促進されるためには，LCCを含むコストや国交省等の基準や指針，財源，活用のインセンティブ等，多くの要素が関連する。  1. 上記以外に留意点と思われる事項は？ |

|  |
| --- |
| ◆設問６：その他   1. 面白い取組み事例，他分野での新技術導入事例，お話を聞いてみたい方等があれば自由にお書き下さい。 2. その他，気がついたことがありましたら自由にお書き下さい |

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

＜回答者＞

氏名：

このヒアリング結果は，当調査の目的以外には使用せず，またヒアリング回答者を特定できるような整理の仕方はいたしません。

HPアドレス：　<http://me-unit.net/>　　「SIP実装」「岐阜大学」でも検索できます。

Wordファイルのダウンロードアドレス　<http://me-unit.net/documents/>

記入済用紙あるいはファイルの返送先

岐阜大学SIP実装プロジェクト事務局

　〒501-1193　岐阜市柳戸1-1

岐阜大学工学部附属インフラマネジメント技術研究センター　羽田野英明 宛

メール：gjen00088@jim.gifu-u.ac.jp　電話／Fax： 058-293-2436